

科目名	管楽奏法研究Ⅰ～Ⅷ	形態	実技	開講期	春・秋
担当教員	実技担当教員	単位	3	年次	1, 2, 3, 4

### ＝授業科目の目標＝

個人レッスンを通して各専攻楽器の専門家としての演奏技法を研究して行きます。スケール・エチュード等で呼吸法・アンブシュアを整え、フィンガリングやスライドテクニック等、楽器をコントロールする技術を修得します。そして種々のソナタやコンチェルトなどのオリジナル作品や編曲作品等の演奏を行い、音楽の表現力を高めていきます。

### ＝履修の条件と学習の方法＝

各学期 14 回の個人レッスンです。演奏技法を効率良く身につけるため、予習（楽譜をていねいに読み練習する）復習（レッスン後の確認・反復練習）を十分に行うよう心掛けましょう。そして卒業後の目標をしっかりと定めて、1 回 1 回のレッスンに集中し大切にしてください。

### ＝授業内容＝

各期の授業内容は下記のとおりです。

（1 年次）

- 1 期 4 年間の目標を定める。呼吸法やアンブシュア等の基礎奏法の修得、またその為の練習曲の決定。4 年間で演奏する曲目の計画を立て、1 期の履修曲を決める。
- 2 期 4 年間の目標と技術修得の流れを再確認する。基礎奏法の向上を目指しながら練習曲の継続。1 期の履修曲から得た経験をもとに実技試験での演奏曲を決定する。

（2 年次）

- 3 期 1 年次のレッスン、個人練習の成果を確認する。練習曲の進捗をチェックし、引き続き基礎奏法の向上を目指す。履修曲の難易度を上げ、表現力を高める。
- 4 期 基礎奏法の到達度を確認し、2 年次終了時までの到達目標を立てる。レッスンの予習・復習、集中力等を分析し、4 期での練習曲、履修曲、演奏曲を決定する。

（3 年次）

- 5 期 2 年次までのレッスン、個人練習の成果を確認する。4 年間の目標を再確認し、5 期での目標を立て、練習曲、履修曲、演奏曲を決定する。より高度な表現力の達成を目指し、楽曲分析にも力を入れる。
- 6 期 4 年次に備え 6 期に達成すべき目標を立てる。基礎奏法を再確認し、練習曲の難易度を上げ、履修曲、演奏曲のレパートリーを拡げて行く。

（4 年次）

- 7 期 3 年次までのレッスン、個人練習の成果を確認する。4 年間の目標から考えられる卒業試験までの課題を決め、日々の練習ポイントを確認する。卒業後の進路のための対策を練る。
- 8 期 卒業試験に向け、最終的な目標を立てる。基礎奏法や練習曲の到達度を確認し、卒業試験の演奏曲を決定する。4 年間の研究の集大成を行う。

### ＝成績評価の方法と評価の基準＝

定期実技試験による評価、または平常点（実技試験が課されない場合）となる

1 学期間における出席回数が 3 分の 2 に満たない場合、出席不足となり実技試験を受けることはできません。

**=その他=**

特になし